

泌尿器・副腎・腎移植外科に、過去に通院・入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体または通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和4年3月10日一部改正。文部科学省・厚生労働省・経済産業省)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、検体・診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。検体・診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会で承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 内藤 宏仁 香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 病院助教

[研究課題名] 生体腎移植ドナーにおけるCTによる腎体積計測法と99m-Tc MAG3による腎動態シンチグラフィの術後腎機能との相関性の比較

[研究の目的]

腎移植は、末期腎不全患者に対して提案すべき腎代替療法のひとつです。ただ、本邦における腎移植医療はその約9割を生体腎ドナーに頼っている状況であり、腎提供後に片腎となるドナーについては、十分な残腎機能を担保すべく摘出側は慎重に選択されなければなりません。ドナーの分腎機能評価に用いられる検査として腎動態シンチグラフィが古くから用いられてきました。近年、分腎機能評価におけるCT(computed tomography)による腎体積測定;CT volumetry(CTV)の有用性も報告されております。当院ではこれまでにドナーの分腎機能検査として腎動態シンチグラフィを用いてきましたが、加えてCTVも行い、両検査の特徴について比較検討することで摘出すべき腎の決定やより正確なドナーの残腎機能の予測に役立つと考えました。本研究はその前段階としての当院で過去に行った腎移植ドナーの情報を用いて、実際の残腎機能と移植前CTVと移植前の腎動態シンチグラフィによる分腎機能のそれぞれの相関性を評価します。

[研究の方法]

対象となる患者さん

2006年1月1日から2022年4月30日の間に当院で施行した腎移植のドナーで術前にCT・腎動態シンチグラフィを施行した患者さん

利用する検体・診療情報

以下の診療情報を診療録より収集し、利用します。

移植後の残腎機能(Cr、GFR)、それから求める術前術後の腎機能低下率

移植前のCTから求める残腎体積、残腎体積/両腎体積

移植前の腎動態シンチグラフィから求めた予測残腎機能

その他に、性別、年齢、術前体重、身長、BMI、体表面積、血圧、既往の有無、CRP、LDH、尿酸値、総コレステロール、白血球数、Hb、血小板数、好中球数、リンパ球数、尿中クレアチニン、尿中タンパク、尿中NAG、尿中ミクログロブリン、尿中アルブミン、腎採取方法(開腹、腹腔鏡)・摘出側・摘出腎重量・周術期合併症の有無

[試料・情報の管理責任者]

香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 病院助教 内藤 宏仁

[研究組織]

香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 担当医師 内藤 宏仁

電話 087-891-2202 FAX 087-891-2203